

## 2025 年度 関西支部集会 開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会  
開 催 日：2026 年 3 月 7 日（土）10:00～16:45  
会 場：追手門学院大学 茨木総持寺キャンパス  
参加人数：71 名（会員 36 名、一般 35 名）

2025 年度関西支部集会を上記のとおり開催いたしました。昨年に引き続き、対面開催で、直接的な情報交換やディスカッションが各所で繰り広げられる、有意義な交流・学びの場となりました。

口頭発表は、3 件行われました。中上級学習者におけるアスペクト「テイタ」の習得研究や戦後識字教育の現在地に関する課題、多文化共生社会をテーマにした地域シンポジウムの実践事例など、多様で興味深い内容が共有され、発表後は参加者から多くの質問が飛び交い、活発な意見交換が行われました。なお、口頭発表は 4 件の予定でしたが、辞退により 3 件となり、直前に開始時間を変更いたしました。周知が行き届かず、早く来ていただいた方々、申し訳ございませんでした。

ポスター発表は 2 件行われました。「日本語会話力向上のためのタスクベース AI アプリ『Gengobot』の開発」や「難易度別メール文タスクの設計と課題」といった実践的な研究が披露され、AI 技術を活用した日本語教育の新たな可能性と教材設計に関する興味深い議論が展開されました。

パネルセッションでは、「関西日本語学校における多様な実践と課題」をテーマに、関西の日本語学校から 3 名の先生方にご登壇いただき、各校の理念や学習者の多様な背景に応じた教育設計・実践から得られる示唆について、3 校の事例が紹介されました。その後の質疑応答では、多数の質問が寄せられ、各校の取り組みについてより具体的な学びを得ることができました。

最後に、閉会式を行い、この 10 年間の関西支部集会の活動を振り返り、多くの学びや共感の場を提供してきたことを参加者全員で共有しました。また、歴代 3 名の関西支部委員の先生方から思いのこもったご挨拶をいただきました。

参加者アンケートでは、支部活動への感謝や終了を惜しむ声が多く寄せられました。「形を変えてでも継続してほしい」「日本語学校の横の連携を深めてほしい」といった要望も見られました。パネルセッションで紹介された日本語学校の取り組みや理念が好評で、教育現場での参考になる内容だったとの意見を多数頂戴しました。また、自己評価や相互評価の難しさや、教育の成果だけでなく過程の重要性を再認識したという声もありました。対面形式の良さや発表内容の充実さが評価され、初参加者からも「貴重な機会だった」との意見があり、学びとつながりを広げる場として好評を得ました。

ご参加いただいた皆様、当日の運営補助や閉会式でのご挨拶をいただいた歴代支部委員の先生方、今回の開催にあたってご支援いただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

（報告者：関西支部活動運営委員 藪崎淳子・久保田文子）

